

がん薬物療法に関連した検査部での取り組み

群馬大学医学部附属病院 検査部

がん薬物療法と血液検査

抗がん薬は血液をつくり出す細胞にも影響することがあるため、血液中の細胞の検査は安全にがん薬物療法を行うことができるのかの判断に貢献しています。

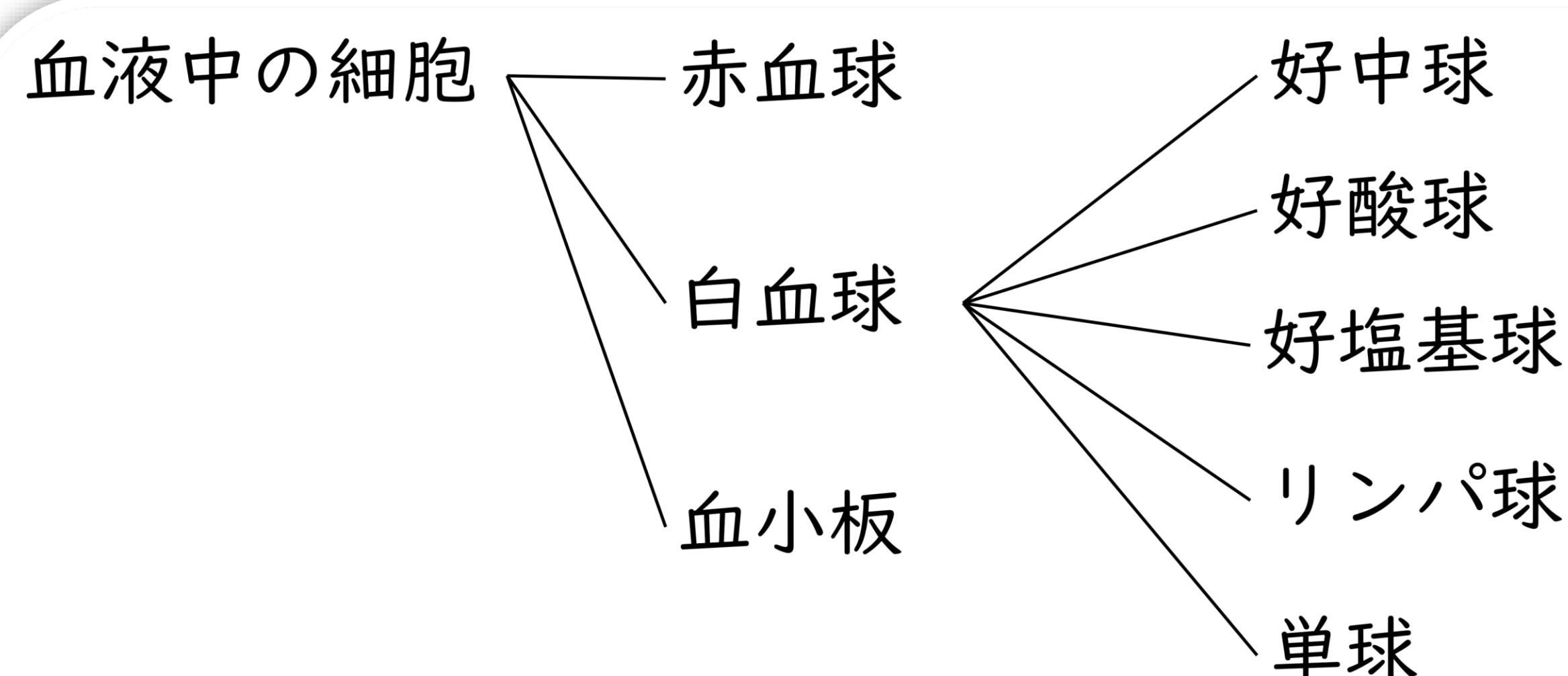
血液中の細胞のうち白血球、特に好中球の数が少ないと細菌感染を起こしてしまう危険性が高く、より重症となることもあるため、がん薬物療法では、好中球の数の結果は重要です！

好中球の数の検査結果が分かるまで

血液中の細胞の数や濃度を検査する



白血球の種類とその割合を検査する

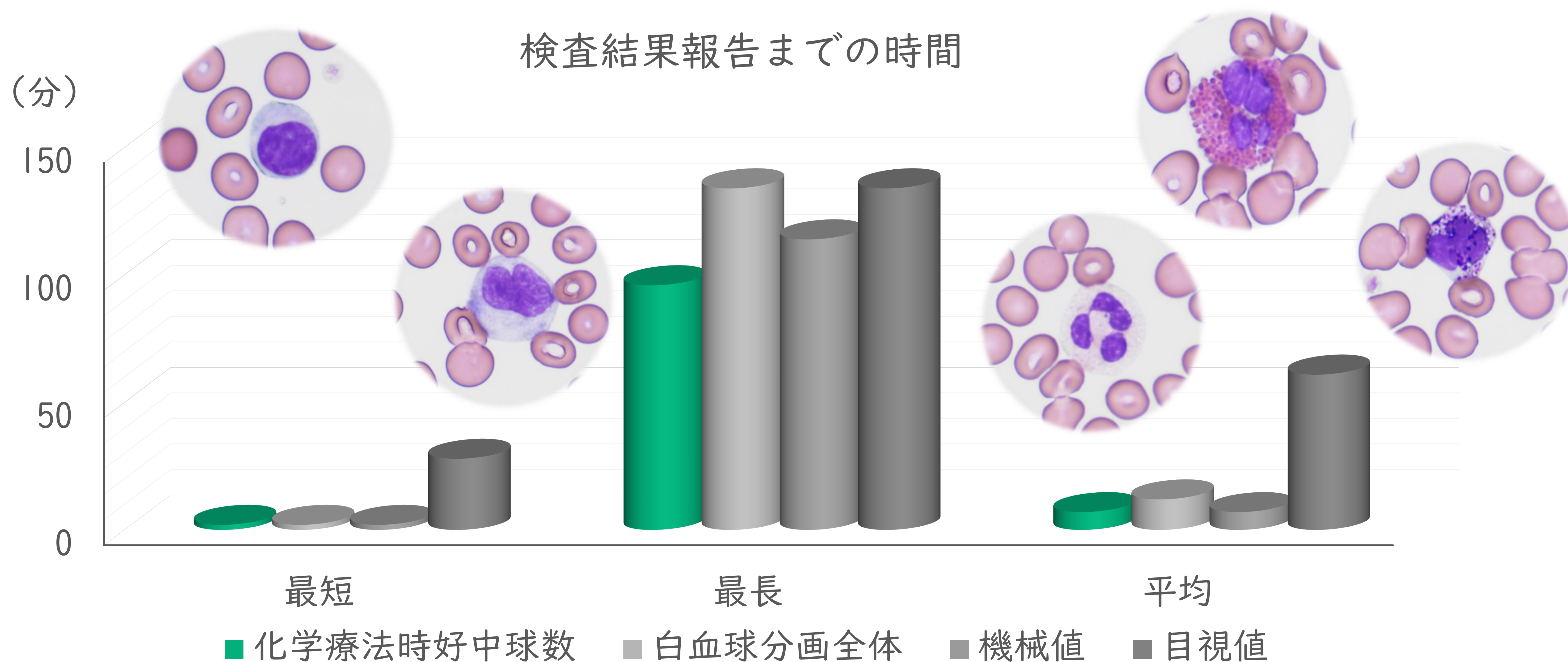


白血球の種類を調べる検査は技師が顕微鏡で確認することがあり、その分結果が出るまでに時間がかかることがあります。

そこで検査部では、がん薬物療法に必要な検査結果をより早く報告できるように独自の検査項目「化学療法時好中球数」を採用しています！

* 「化学療法時好中球数」では機械で測った白血球分画の結果から好中球数のみを報告しています。

化学療法時好中球数は、より短い時間で結果報告ができています



検査結果をより短い時間で報告することで、より安全ながん薬物療法に貢献！